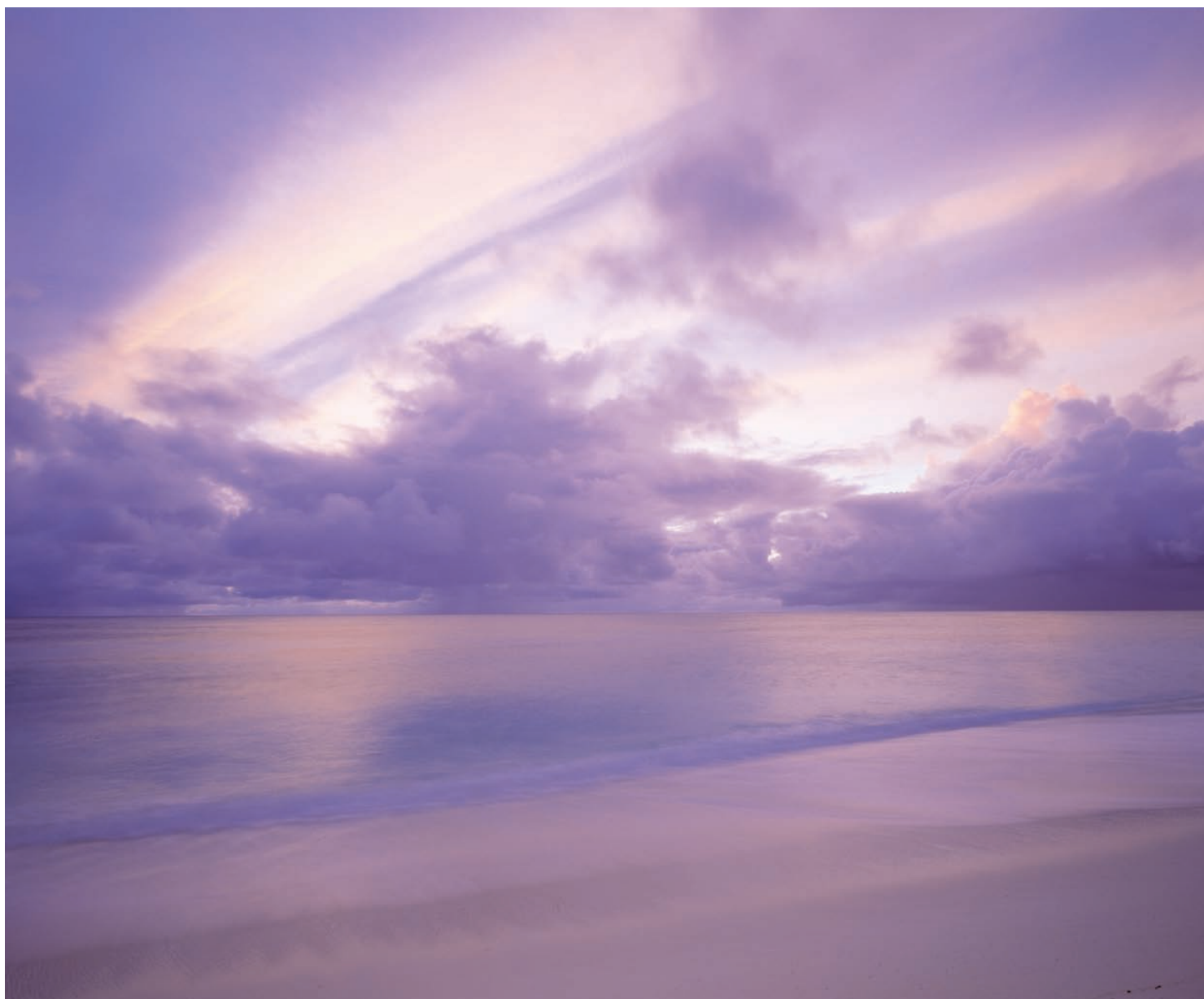


# Mamiya Gallery

Vol.  
15  
2008



Photo/川合 麻紀



### 総評

MCCフォトコンテストも今回で16回を迎えました。回を重ねるごとに応募作品のクオリティ、特に技術面での質が確実に高くなってきていることを実感し選者としてたいへん嬉しく思っております。

しかしその一方で、被写体の選択や狙い方がやや定番化しているという印象も少なくありません。前回にも触れましたが、同じ被写体でも視点と発想を変えることで見違えるような作品になる例が沢山あります。

例えば、使い慣れたレンズを替えてみるとか、いつも絞り開放で撮ってみるなど。そんなちょっとした工夫やアイデアが変化のきっかけになるかもしれません。いろいろと試して新しい表現に挑戦していただきたいと思います。

日本写真家協会会員 原 弘男



### 金賞 『寒椿』

戸塚 勇(埼玉)

霜の降りた寒い朝の様子がしっとりとした静かな画面から伝わってきます。何気ない被写体をこまやかな観察眼と確かな技量でとらえた秀作です。

645AFD AF105-210mmF4.5 f5.6 オート-0.7EV補正  
ベルビア100









銀賞  
『怪流』

那須 三宏(東京)

水面にいろいろと不思議な模様が現れて、見る人の想像力をかりたててくれます。一般的な水流の撮り方に比べるとシャッタースピードが速く、その発想がこの作品の魅力につながりました。

645プロ C210mmF4.5N f5.6 1/125秒 ペルビア100 PL



銀 賞

『キャンドルサービスの夕』

宮田 享(神奈川)

二重露光ではないかと思わせる絶妙のタイミングで撮影された作品で、富士山と残照と花火の組み合わせは見ごたえがあります。この瞬間を確実にとらえた技術の高さはお見事です。

RZ67プロII f8 バルブ ヘルビア100





銅賞

『朝光』 富野 順一(広島)

晩秋の朝のひんやりとした空気感がよく表現されています。通常なら遠景だけでまどめがちな場面ですが、別荘地を入れたことで写真に物語が生まれ、見る人のイメージを膨らませます。

RB67プロSD C360mmF6.3 f22 8秒 ベルビア50



銅賞

『緑映る』 飯塚 光男(東京)

北国の春の息吹が画面一杯に溢れています。蕨の新芽がキラキラと輝いて見えるのは光線状態が良かったからでしょう。隅々までシャープで画面構成にも細かい気配りを感じます。

RZ67プロIID Z100-200mmF5.2W f45 1秒 ベルビア100



コダック賞

『朝もやの高原』 山崎 泰(栃木)

霧の影響かそれとも色温度の妙なのでしょう、モノトーン調の微妙な色合いが魅力的です。ワタスゲも例年より多かったようです。良い時期に行き当たったことと、撮影の時間帯の選択が良かったと思います。

RB67プロSD KL127mmF3.5L f22 1秒 E100VS



入賞

『雪日』 伊藤 新一(愛知)

松の木から受ける連想も重なって墨絵を思わせる洗い味わいの作品です。淡い雪化粧がそのイメージを盛り上げています。手前の草が少しうるさい気はしますが、これが無いと寂しい印象になってしまいます。

ユニバーサルプレス 100mmF3.5 f32 1/8秒 リアラ UV





入賞

『霧林』 武藤 繁一(滋賀)

ナナカマドにピントを合わせ、霧の白樺林をアウトフォーカスにしたことで画面に奥行き感が出ています。絞りを開けたことで効果が上がっています。レンズの使い方が上手く構図に無駄がありません。  
RZ67プロII マクロM140mmF4.5M/L-A f5.6 オート ヘルビア50 UV



入賞

『目覚め』 井澤 信夫(埼玉)

ここは有名な撮影地の一つですが、背景が暗く落ちている事とフレーミングが大胆なので目新しさを感じます。菜の花のボケ具合が春爛漫の雰囲気を感じさせています。  
645プロTL C105-210mmF4.5 f16 1/125秒 ヘルビア100





入賞

『寸光に輝く』 鈴木 弘己(静岡)

安曇野周辺は信州の中でも特に立派な桜が多いことで知られています。この桜も北国の桜にふさわしい勢いがある見事ですが、欲をいえば何かいま一つドラマチックな要素が欲しかった気がします。

RZ67プロII Z180mmF4.5W-N f22 1/30秒 ベルビア100



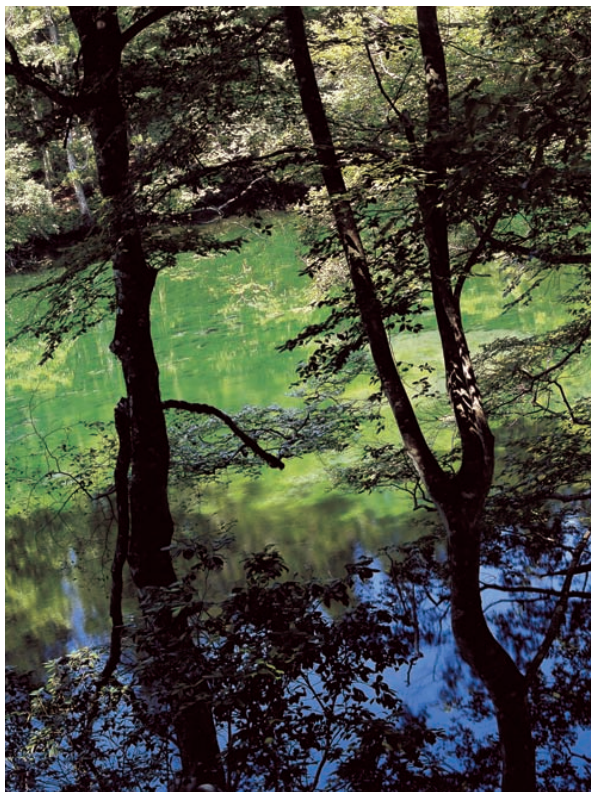
入賞

『残り柿』 川野 豊彦(広島)

残り柿と雪の組み合わせは魅力的な被写体ですが、背景が少しうるさかったですね。もっと望遠よりのレンズで切り取って撮ると背景がボケて、赤と白のコントラストも際立ってくるでしょう。

645プロTL C105-210mmF4.5 f11 オート ベルビア100 PL





入 選

『Blue&Green』 松井 謙吾(神奈川)

水面に映った空の青と葉の緑が鮮やかで綺麗です。あまりに深い色味の沼なので、もう一步踏み込んで画面の下部を中心に、沼の怖さや不気味さといったイメージでまとめてみても面白いかも知れません。

645AFD AF105-210mmF4.5 f22 1/4秒 ベルビア100 PL



入 選

『ブナ飾る』 井川 クキ子(東京)

霧か雨で光が柔らかく、蔦の黄葉が見た目より明るく綺麗に出ています。「ブナ飾る」という意図をさらに強く表現するために、絞りを開けて背景をボカしてみるのも一手だったかも知れません。

645AFD AF55-110mmF4.5 f32 2秒 プロビア400X



入 選

『流 雲』 生頼 弘(奈良)

雲が流れ落ちる滝のように見えて、大きなスケールがよく表現されています。写真を大きく引き伸ばすと迫力がでる作品です。シャッタースピードの選択がベストでした。

645AFD AF105-210mmF4.5 f4.5 オート+0.7EV補正 ベルビア100





入 選 『霧氷林』 太田 秀男(長野)

一面についた霧氷に斜光が差し込み、立体感を出しています。光が演出したドラマですね。ほんの少しだけブレているようですが、遠景の場合は絞り込みすぎずに、ブレ防止の為に早いシャッタースピードを心がけましょう。

RB67プロS KL250mmF4.5L-A f22 1/15秒 ベルビア100 PL



入 選 『霧の朝』 鈴木 洋一(新潟)

霧のキラキラした輝きと畦のカーブの入れ方が見事です。初冬の里山の様子がうまく表現されています。レインボーフィルターがポイントになってハッとしますが、無くても素朴な自然さが表現されて良かったかも知れません。

645AF AF80mmF2.8 f16 1/30秒 ベルビア100 レインボー

mcc Photo Contest 16

写真の醍醐味、多彩な個性の競演……

それがMCCフォトコンテスト。

第17回の応募期間は

2008年9月1日(月)～10月31日(金)です。

写真テーマは自由です。ふるってご応募下さい。



## 総評

落ち葉が綺麗だった美人林、秋空いっぱいに広がったウロコ雲、霧がもう少しあったらな…と欲が出た蒲生の棚田。そして紅葉真っ盛りだった野々海の白樺林など、豊富な被写体と最高のコンディションの中で、皆様方、思う存分に撮影を楽しまれた事と思います。

そんな気持ちが作品に反映してか、応募作品はバラエティに富んだ傑作ばかり、選考にはうれしい苦勞をしました。



## 銀賞

## 『独りぼっちの秋』 鈴木 洋一(新潟)

自然というものはなんと面白く不思議な世界を作りだしてくれるのでしょうか。広いフィールドの中でこれを見つけた作者のカメラアイにも感じますが、自然が作り出したアートにも賞賛の拍手を贈りたいです。

645AFD AF80mmF2.8 f22 1/4秒 ベルビア50 C-PL



## 銅賞

## 『山里の夜明け』 古関 良一(東京)

日の出のタイミングをうまく捕らえているのでスキがキラキラと輝いてきれいです。霧があまり多くなかったので、当日のねらい方としては、あえて棚田を作画の中心から外したことが成功でした。

646AFD AF35mmF3.5 f19 オート-0.3EV補正 フォルティア



## 金賞

## 『樹と紅葉』 早川 弘(岐阜)

豪雪の中でたくましく生きる樹木の生命力を、一本の白樺を主役に力強く表現しています。レンズの使い方が上手いですね。手前にもう少しピントがきていたら理想的でした。

マミヤ7II N43 mm F4.5L f16 オート ベルビア100



## 銅賞

## 『紅葉さかり』 行川 征子(埼玉)

鮮やかさの中にもデリケートな色の競演があって、中判フィルム写真の魅力がたっぷりの作品です。画面の隅々にまで気配りが感じられ、構図がしっかりとまとまっています。

645AFD AF35mmF3.5 f22 オート-0.3EV補正 ベルビア100 PL





JTB賞

『夕照』 大貫 剛志(茨城)

ポジをスキャンしてインクジェットプリンターで仕上げていますが、レタッチが効果的であるでアニメーション映画の1コマを見るような夢のある作品です。流れる雲や棚田と木の配置など画面全体の構成もよかったですと思います。  
645プロTL ULD C105-210mmF4.5 f11 オート ヘルビア100



入賞『静寂』 飯塚 光男(東京)

雪国のブナ林の特徴がしっかりと構図で的確に捉えられています。樹木の重なりや背景の入れ方などに綿密な計算が見てとれます。  
RZ67プロII D M65mmF4.5L-A f32 オート プロビア400X



入賞『晩秋の主役』 阿部 勝彦(宮城)

魚眼レンズの持ち味がよく出ていますが、中央の木が真っ直ぐな為歪曲の面白さが少し弱くなってしまった事が残念です。少し右に寄るだけで、だいぶ印象が変わってくると思います。  
645プロ フィッシュアイULD C24mmF4 f22 1/250秒 E100VS SL



入賞『まつだい芝峠の星空』 萩野 信典(神奈川)

皆さんが寝静まった後に撮影されたのですね。努力賞と技能賞を差し上げます。遠くの町の明るさを考えると絞りと露光時間はピッタリ適正だったと思います。因みにこういった時はマゼンタのフィルター(10~30M)を使用すると空の緑が消えるのでお試しください。  
645AFD AF35mmF3.5 f4.8 50分 ヘルビア100 UV



入選『雲』

井澤 信夫(埼玉)

この日のウロコ雲はととても立派でしたね。木の配置が良かったのと、下にある田圃を入れずにシンプルにまとめた事で、空の高さや雲のスケール感がよく出ています。  
6457 DTL C35mmF3.5N f16 1/250秒  
ヘルビア100

入選『深山』

早川 一三夫(愛知)

明け方までの雨で、落ち葉がしっかりと濡れて大変きれいでしたが、その様子をケレン味なく素直に捕らえられている点に好感を持ちました。難を言えば落ち葉が主役なので手前も被写界深度内に入るよう、ピント位置を考えて合わせて下さい。  
マミヤ7II N80mmF4L f22 1/30秒 ヘルビア100





## 波のリズムに呼吸を合わせながら

川合 麻紀 (かわい まき)

私の写真は、直感から生まれます。  
そこにはあまり説明的な要素はなくて、その場に立ったときにふときれいだとか、気持ちいいとか、面白いとか感じた瞬間を切り取っているのです。  
写真は視覚の要素ですが、聞こえるもの、匂うもの、触れた感じ、味覚など、それ以外の感覚も感じられるものが表現できたらいいなと思っています。

写真の被写体に対して、こだわりがあるとすれば「色」であるとか「形」であるとか、そういう要素にはよく注意して見ているかもしれないと思います。  
そこで、現在はひとつの大きいテーマとして「The colors of nature」をテーマに撮影を続けています。

今回の波の写真は、インド洋に浮かぶ、セイシェル諸島の中の小さな島で撮りました。セイシェルには6回ほど通っています。メインは島に集まる海鳥たちの撮影なのですが、毎日波の音と共に生活しているうちに、無性に波を撮りたくなってきました。そこで、マミヤ7IIにN43mmF4.5Lをつけて波と向きあうことにしました。外付けのビューファインダー越しに見る波は、何度見ても同じことはなく、刻々と変化して生き物のようにも見えます。静かに打ち寄せていた波が、突然大きくうねって足下の砂をさらっていくこともあります。そんな触感のようなものまでも、写し込めたらいいなと願いながらシャッターを切りました。



横浜生まれ。

自然&動物写真家。

「The colors of nature」のテーマのもと、アフリカ、カナダ、セイシェルなどの自然・動物、そして国内の風景や花などを中心に撮影取材を行っている。独特の色表現と、爽やかでやわらかい描写を得意とし、メインの自然風景の他、イメージフォト系も好んで撮影する。写真展多数。写真教室、写真雑誌等、わかりやすい指導で定評がある。今年の年末には2005年に引き続き「趣味悠々」(NHK教育)に出演予定。

写真展(個展)多数開催

(社)日本写真家協会会員。

<http://maki.rota-fan.com/>



マミヤ7II N43mmF4.5L





マミヤ7 II N43mmF4.5L



マミヤ7 II N43mmF4.5L

## モノクロ銀塩フィルムとフィルム現像

モノクロフィルムで撮影しても現像所も少なくなり現像に出しても時間がかかるようになりました。そこで今回はモノクロフィルムの現像に挑戦してみましょう。それほど難しくなく短時間で出来るので試してみてください。銀塩モノクロフィルムの面白さが分かります。

### 撮影

モノクロにしたイメージで写真を撮ります。特にモノクロ写真では光を見る事が大事になります。光の強弱を出来るだけ広くなめらかにフィルムに取り込む様にします。カラーフィルムでは色が違っていてもモノクロだと同じ明るさとして写る色もあります。

### モノクロフィルムの選び方

モノクロフィルムにはカラーフィルムのようにメーカーや感度の違いがあり粒状感などそれぞれ特徴があります。コダック、富士フィルム、アグファ、など。感度もISO100、400などがあります。自分で現像するので現像の温度や時間を変えると感度を上げた状態に現像することも出来ます。これを増感現像といいます。薬品を変えたり現像時間を変更する事で軟調や硬調に出来るのもモノクロ現像の特徴です。極めればゾーンシステムのように現像するなど奥深いのがモノクロフィルム現像です。

### データシートを参考に、薬品を準備します

規定の温度で薬品がなじむ様に現像液、定着液を前日に希釈しておきます。机に液をこぼさない様にバットを置くか、お風呂場などの液がこぼれても良い環境で始めます。



D76 現像液



ダークバックでリールにフィルムを巻き込んでタンクに入れます。中は見えませんので手探りの作業になります。蓋を閉めればダークバックから出して明るいところで作業する事が出来ます。



ダークバックのなかでリールに巻きます。

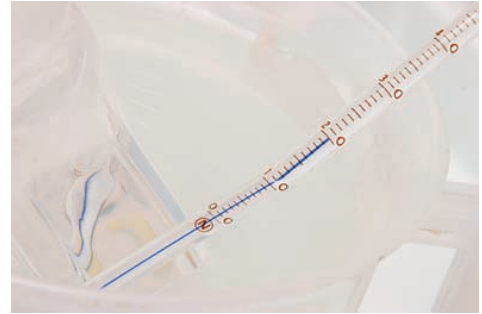
不要なフィルムを使い明るいところでリールに巻く練習をしてください。





## 現像液

フィルム現像液は、互換性があり混合して使えます。組み合わせや作者の好みで変えることもできます。現像主薬のメトールやヒドロキノンなどの薬品を調合して現像液を作ることでもでき、成分表などもあります。フィルム専用の代表的な薬品にコダック T-MAX や D76、富士マイクロファインなどがあります。粉状の袋入りと液体の物があり、日持ちの時間や希釈方法が違います。説明書どおり進めれば難しくはありませんが、現像は化学です。液温、液量などは正確に量ってください。



はじめはデータどおり進み、慣れたらにいろいろ試してください。人や資料により変わる場合もありますが、現像は同じやり方を繰り返すのが基本です。最初は現像ムラがなく、濃度が適切ならば良いのです。

## 現像から定着まで

タンクの上の小さなふたを開けて現像液を注入します。タンクの角を軽く机にたたき気泡を抜きます。最初は手首をまわして1分間連続撹拌します、最後に一度上下をひっくり返して机に角を当てて気泡を抜きます。その後は1分ごとに最後の10秒だけを撹拌し上下をひっくり返し、指定の時間まで繰り返せば、現像は終了です。人によっては30秒ごとに5秒撹拌するなど方法は様々です。ポイントはムラが出ない様に同じ方法で繰り返して安定性を保つ事です。

指定の時間がきたら上のフタを外して現像液を捨てて、停止液を入れます。



## 酢酸

現像液の進行を止めます。流水の水洗だけで済ます人もいます。通常は約5パーセントの希釈で使い捨てです。20～30秒連続撹拌して停止液を捨てます。

## 定着液を入れます

最初は現像液と同じ様に撹拌したら、後は何度か撹拌させ5～10分ほど定着させます。新しい液で20度～25度ぐらいで10分程度です。ぬける時間の倍位が目安になります。定着液は何度か使い回しが効きます。空気に触れない様な保存方法で2ヶ月位が目安ですが定着液の疲労や時間不足は変色の原因になります。

## 水洗

流水で水洗いを数10分した後、スポンジやスクイージーで挟みながらふきます。両端を専用のクリップを挟みほこりの少ないところで自然乾燥させます。



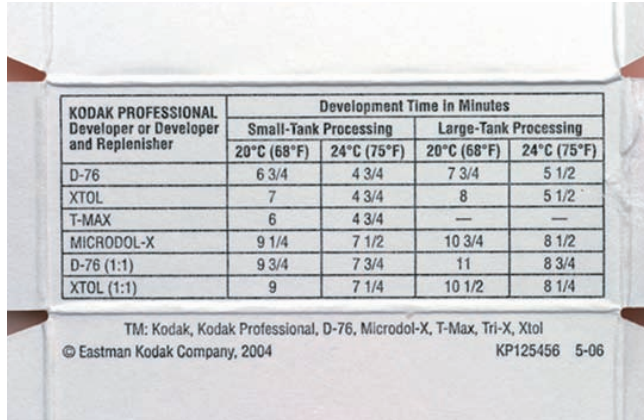
巻き込み時に上手く巻き込めなかったり、現像液がすくなかったり、気泡でむらになったりすると現像失敗と言う事になります。

## 希釈と 現像時間

現像液の原液だけの現像でも現像する事が出来ますが、現像するごとに、補充液をたしたり1割程度時間を延長する事でほぼ同じ仕上がりになります。

水と1対1希釈の使い捨て方法は、原液現像よりシャープ感があり、液温の調整もしやすく安定性もあります。

各社のデータは、インターネットなどでも紹介されています。基本の現像は像が出る事で良いのですが、本当のモノクロ現像の面白さは、自分なりの現像時間や希釈の比率などでコントラストや粒状性を変えられる事です。自分なりの調子を作り出せるようになるまでは基本のまま、撮影時の露出なども含めて自分のイメージに合った仕上がりを探る事が出来れば完璧です。



KODAK PROFESSIONAL Developer or Developer and Replenisher	Development Time in Minutes			
	Small-Tank Processing		Large-Tank Processing	
	20°C (68°F)	24°C (75°F)	20°C (68°F)	24°C (75°F)
D-76	6 3/4	4 3/4	7 3/4	5 1/2
XTOL	7	4 3/4	8	5 1/2
T-MAX	6	4 3/4	—	—
MICRODOL-X	9 1/4	7 1/2	10 3/4	8 1/2
D-76 (1:1)	9 3/4	7 3/4	11	8 3/4
XTOL (1:1)	9	7 1/4	10 1/2	8 1/4

TM: Kodak, Kodak Professional, D-76, Microdol-X, T-Max, Tri-X, Xtol  
© Eastman Kodak Company, 2004 KP125456 5-06

フィルムの箱の中にも基本データが載っているフィルムもあります。

余った液は保存出来る物と出来ない物があります。保存用のボトルもありますが不要のペットボトルなどで代用も出来ます。黒いビニールなどでまいて冷暗黒で保存します。

## 現像タンク とリール

明るいところで扱うことの出来る、完全遮光のタンクとリールです。ブローニータイプは35ミリサイズの倍の大きさのタンクが必要です。1本用2本用などがあります。

タンクが5000円ぐらいリールは2000円ぐらいで購入できます。

ステンレスのタイプとベルト式などがあります。

タンク、リールがなくても現像は可能ですが、完全暗黒になる部屋と技術が必要です。フィルムの端と端を持ち深めの容器に入れながら上げ下げして現像しますが、精度はあまり良くありません。仕上がりは濃いめのグリーンランプで短時間に確認できます。4×5などのシートフィルムと同じ様な現像方法で皿現像と言います。



現像タンク 1本用(左) 2本用(右)  
リール 220用(左) 120用(右)

## ダーク バック

フィルムをリールに巻くときに使用します。

完全暗黒な場所があれば必要ありません。

フィルムの巻き込みは暗黒の手作業になります。



## 貯蔵タンク 攪拌棒 ロート

専用のものでなくても代用出来る物でかまいません。  
現像は化学です。薬品の液量を計るメスカップ、液温を計る液温計などが必要です。  
水洗したフィルムを乾燥させるには、専用のスポンジやスクイザーで拭きほこりの着かないところで乾燥させます。乾燥が終わったらネガケースに保存して完了です。



スポンジとクリップ

## デジタル 処理

プリントの引き延ばしには暗室や引き延ばし機が必要になります。  
密着であればガラス板と印画紙だけでもプリントする事も出来ます。現像液は変わりますが停止、定着液などは同じ物で良いので、試してみるのも良いでしょう。プリントでは赤のランプを使う事が出来ますので手元が見えます。

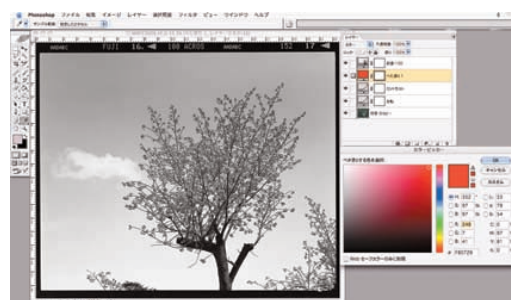
最近ではデジタルでもモノクロにした写真を良く見かけます。銀塩カメラでフィルム撮影をしてデータに変換してプリントするという試みも人気があるようです。

フィルムをスキャニングしたり、ライトボックスにおいて、デジタルカメラで複写してデータ化し、パソコンからインクジェットプリンターでプリントしたりすることもできます。

複写の場合、ライトボックスの上にネガを置き、階調を残す様にヒストグラムを見ながらデジカメで複写します。



最近のパソコンのインクはモノクロの調子を綺麗に出す事が出来ます。プリント紙の選択やデジタルプリントするのに都合の良いネガ作り、調整レイヤーによるプリント技術なども色々試されています。



オレンジ・レッドフィルターと同じ効果



グレースケールにしたデータをフォトショップ調整レイヤーにベタを置きカラーピッカーの色や明るさを変えるとフィルター効果になります。これだけでもいろいろな調子を作れます、加えてレベル補正やトーンカーブなどいろいろな方法でコントラストなども調整する事が出来ます。

## マミヤZD、2170万画素の実力は 山岳写真で大判カメラの実力に匹敵した



太子峰 マミヤZD AF210mm インクジェットプリンター出力を印刷

よいチャンスがあってマミヤZDの実力を大発見する機会に恵まれました。

マミヤZDでは何年か前から撮影を始めてヒマラヤや日本の山などでデータを撮りためていました。そして今年の四月ですが、私に大変高性能なパソコンを譲ってくださる方があって、誠に遅ればせながらパソコンを始めたのです。キーボードも満足に打てないのに、そのパソコンを下さった方から個人授業的に猛特訓を始めました。目的はもちろんプリンターで写真仕上げができるようになること。そしてまがりなりにも五月の初めにはこのようなプリントができるようになったのです（決して器用でできたとは申せません。いわゆる画像処理はなし、濃度の調整程度ですが）。

そしてビックリ、ZDのデータはこんなにスゴイのか！！ということです。もちろんマミヤのレンズのいいのはご存知の通り、ZDにはマミヤ645AFD用のレンズ全部が使えます。カメラの使い勝手もフィルムカメラと同じようにまことによかったです。

しかし、正直最終的にプリンターからの出力を見て、これは驚

異でした。あの2170万画素の描写性は、まこと8×10判フィルム級のものとみえました。

フィルムとデジタルももちろんこれは対象（ことに山）の階調のとらえ方が大分異なります。いうなればデジタルは微分的な描写で、目と心で捉えたデリケートな存在感が直接イメージになったということでしょうか。考えていた欠点の雪などの描写もまず満足のいくレベルです。大げさにいえば“山の新しい感覚”が表現できたといえるのでしょうか。

この超細密描写を基本に考えれば、大判カメラでじっくり構えて写すという作画態度がふさわしい。1コマあたりJPEG・RAWとともにデータにすれば45MBのファイルサイズが必要ですが、一枚一枚を大判カメラのような慎重な狙いで撮れば決して過大なものとは感じないでしょう。

私はごく素朴な使用方法（フィルムカメラと同じような使い方）で撮ってこのように仕上がりました。実景に比べてみてもこれらの画像は完成度が高いので特に画像をいじり回して自然らしさを失うのも考えもの、と思います。ともかく、ド素人から始まったマミヤのデジタル山岳写真。こんな作品が生まれました。



MCCインフォメーション 新製品ニュース

Mamiya

# 645AFD III

## ともに、限界に挑む。

デジタルとの親和性を高めた645AFD III。  
潜在能力を覚醒させ、頂点を極める領域へ。

Film × Digital  
Mamiya × Something  
Human × Technology



いかなる制約も受けないという特権。

撮影環境に合わせFilm×digitalで対応可能なハイブリッドカメラ「Mamiya 645AFD III」  
新たなテクノロジーが生み出したオープンブラットフォームが、  
Mamiya ZD Back、PHASE ONE社製デジタルカメラバックなど、  
世界中のあらゆるハイエンドデジタルカメラバックとの連携を高め、一体感ある操作性を実現。  
最適化を図った通信システムでデジタルバックのポテンシャルを最大限に引き出し、  
撮影者のあくなき欲求に応えます。



将来を見据えたスペックを搭載。時代を超えたスタンダード機へ。

プロフェッショナルニーズに応える  
バック交換システム

中判カメラ最速  
最高速度1/4000秒シャッター

グリップ上で全てを操る  
ボタン&ダイヤルで一括操作

撮影者の意志と同期する  
36種類のカスタムファンクション

一瞬を逃さない  
高精度オートフォーカス

さらに高品位な画像へ  
レンズ特性補正機能

被写体を的確に狙う  
AF3点測距エリア

ワークフローをサポートする  
撮影データ記録機能

### Mamiya ZD Back



Mamiya ZDと同様の操作性を実現

Mamiya ZD Back デジタルカメラバックは、有効画素数  
2130万画素、着脱式ローパスフィルターの採用など高画質に  
拘った仕様です。「Mamiya 645AFD III」と組み合わせること  
により、一体型のデジタルカメラのようなシームレスな撮影環境  
を実現します。

## マミヤセコール AF80mm F2.8D

### 特徴

マミヤセコールAF80mmF2.8Dレンズは6×4.5cm判で画角47度、35mm換算で50mmに相当する標準レンズです。無理のないレンズ設計で、諸収差の少ない自然で素直なバランスの良い描写を実現しています。マミヤZD/645AFD III/IIとの最適化を計り16BitのCPUを使用。新たにレンズ側でAF/MFの切り替えを行うAF/MF切り替えリングを装備し、フォーカスモードの切り替えがワンタッチで行えるようになりました。

### 主な仕様

レンズ構成：5群6枚  
画角：47° 最小絞り：22  
最短撮影距離：70cm  
最短撮影倍率：0.15  
最短撮影範囲：279×377mm  
35mmカメラ換算値：50mm  
フィルター径：67mm  
フード：パヨネット式  
寸法：51.5×80.5mm 質量：330g  
マミヤZD装着時：93mm  
マミヤZD装着時(35mmカメラ換算値)：58mm  
メーカー希望小売価格 99,000円 (税込103,950円)



## マミヤセコール AF150mm F2.8 IF D

### 特徴

マミヤセコールAF150mmF2.8Dは6×4.5cm判で画角26度、35mm換算で93mm相当の中望遠レンズです。超低分散ガラスの採用により色収差を極限まで補正、無限遠から最短距離1mまで安定した高コントラストな像が得られます。インナーフォーカスの採用で重量バランスも良く、手持ち撮影にも最適です。AF/MFの切り替えは距離リングの前後操作で行う事ができます。明るい開放値を利用したポートレート撮影を中心に使い勝手の良いレンズです。

### 主な仕様

レンズ構成：7群8枚  
画角：26° 最小絞り：22  
最短撮影距離：100cm  
最短撮影倍率：0.19  
最短撮影範囲：218×295mm  
35mmカメラ換算値：93mm  
フィルター径：72mm  
フード：パヨネット式  
寸法：120×85mm 質量：780g  
マミヤZD装着時：174mm  
マミヤZD装着時(35mmカメラ換算値)：105mm  
メーカー希望小売価格 245,000円 (税込257,250円)



※645A/F/AFDではご使用いただけません。

# マミヤ協賛撮影会

## 大・中判撮影会 紅葉120%満喫

### 「秋山郷」北信州・栄村

長野県と新潟県の県境は山深く、ブナをはじめとする原生林に囲まれた秋山郷は日本秘境100選にも選ばれています。

日 時：2008年10月31日(金)～11月2日(日) (越後湯沢駅より送迎あり)  
 宿 泊：のよさの里(午後2時) TEL.025-767-2345  
 参加費：42,000円(2泊5食付 現地での移動交通費、撮影指導料、保険料含む)  
 定 員：30名  
 講 師：丹地敏明先生 お申し込み：03-3222-6622

## 旅写真・アトラストレック写真教室 「花畑日尚さんの秋の山岳写真教室」

### 紅葉の立山を撮る

期間：9月23日(火)～25日(木)3日間  
 宿 泊：室堂山荘(朝2食・夜2食付)  
 参加費：49,800円  
 定 員：25名(最小催行人数15名)  
 締 切：定員になり次第  
 集合場所：室堂バスターミナル  
 その他：講師の他にツアーリーダー同行

### 紅葉の尾瀬ヶ原連泊コース

期間：10月3日(金)～5日(日)3日間  
 宿 泊：山の鼻小屋・竜宮小屋  
 参加費：49,800円  
 定 員：25名(最小催行人数15名)  
 締 切：定員になり次第  
 集合場所：JR上毛高原駅  
 その他：マミヤ7II無料レンタル

### 尾瀬ヶ原～尾瀬沼縦走コース

期間：10月5日(日)～7日(火)3日間  
 宿 泊：竜宮小屋・尾瀬沼ヒュッテ  
 参加費：47,800円  
 定 員：25名(最小催行人数15名)  
 締 切：定員になり次第  
 集合場所：JR上毛高原駅  
 その他：マミヤ7II無料レンタル

お申し込み・お問い合わせ 03-3341-0030 (株)アトラストレック

## MCC ORIGINAL GEAR

ハンドメイド、オリジナル商品の為、受注生産。納期は1ヶ月程かかります。(下記の商品につきましては、現金販売のみとさせていただきます)

### マミヤ645専用チェストカメラケース

ザックのショルダーに掛けて首にかかる荷重を軽減。ウェストバック型のマミヤ645専用カメラケース。ザックのショルダー部からジョイントテープで取り付けるので首や腰への負担が少なく、移動中でも速写に対応できます。

- ・マミヤ 645 がそのまま収まる(55-110mmレンズ付まで)
- ・カメラの出し入れが容易で速写に対応
- ・ウェストバック、ショルダーバックにもなる。
- ・信頼のラムダ社製

寸 法/高18×幅25×厚13cm  
 表 材/強力ナイロン製  
 重 量/430g  
 カラー/ネイビー、ブラック  
 会員特別価格 15,225円  
 (税抜価格 14,500円)

実物はマミヤのロゴが入ります



### MCC 3D雲台 ●なめらかな操作の小型 3WAY 雲台。

中判カメラから大判カメラまで対応できる頑丈な小型雲台です。可動部の摺り合わせ面の平面性を極限まで高めており、適度な滑らかさとトルクが得られます。

- ・大型カメラの重量に耐える頑丈さ
- ・スムーズな操作性
- ・レバー式でかさばらない
- ・ブレーキレバーのストップ位置はワンタッチ変更可能

素 材/アルミ削りだし  
 高 さ/120mm 重 さ/800g  
 カメラ取り付け部/60×80mm  
 三脚取り付け部/φ80mm  
 会員特別価格  
 94,500円(税抜価格 90,000円)  
 オプション：  
 ネームプレート名入れ 3,000円



## クラブ員情報



クラブ員佐藤進さんが写真集を発行しました。

## クラブ員、松野敏秀さんの個展が開催されます。

松野敏秀 四季の彩 写真展

日本七海外・旅の風景

と き 平成20年10月10日(金)から10月14日(火)まで  
午前10時から午後6時まで  
 但し10日は午後1時から、14日は午後4時まで  
 ところ あきる野47号 4階 展示室

後 援 中野学園あきる野ルピア教室  
 ホームページ 「小さな写真展」  
<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~matsuno/>

2008年10月10日(金)  
 ～10月14日(火)  
 午前10時～午後6時  
 但し10日は午後1時から  
 14日は午後4時まで  
 あきる野ルピア  
 4階展示室



## 松代から長野県境にかけての棚田とブナ林の撮影会

関越道を降り国道353号線を通り松之山に入る。まずはウォーミングアップとばかりに美人林の撮影に臨む。心配されていた雨も降らずに時々雲の間からレンブラント光線が射す。ひとしきりブナ林の撮影になじんだ後は夕景の撮影に移動。当初予定していた撮影場所が工事の影響でいまひとつ好条件とは言えなかったため、地元クラブ員の鈴木洋一さん秘蔵のポイントに案内していただく。撮影を始めると、雲が筋雲からうろこ状に変化し彩雲も出て、水を張った田んぼに映りこむ。自然条件も良かったが、やはり素晴らしいポイントであった。

宿に入り夕食後は講師の原先生による写真教室で盛り上がる。終了後もあまりに星が綺麗に出ているので撮影をする人



もいた。翌朝は蒲生の棚田で早朝撮影。暗闇の中から薄紙をはがすように徐々に棚田が姿をあらわす。期待していた朝靄や出なかったが、それぞれ工夫を凝らし撮影を行う。

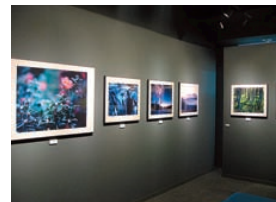
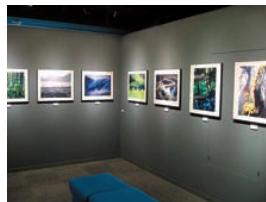
朝食後は野々海池を長野側へ下る途中のブナや白樺の林を撮影。

ここは前日の下見で見つけた絶好の紅葉撮影ポイントで、紅や黄の葉が目にも痛いほどの鮮やかさを誇りながら、行く秋を惜しむかのように輝いていた。ここで弁当を食べて2日間の行程が終了した。

ブナ林、棚田、鮮やかな紅葉、星の撮影と多岐にわたる贅沢な撮影会であった。下見から本番終了まで奔走していただいた原先生、地元クラブ員の鈴木洋一さん、山本貴一さん、ありがとうございました。

## 第15回・16回MCCフォトコンテスト入賞作品展開催報告

HCLフォトギャラリー新宿御苑におきまして、第15回・第16回MCCフォトコンテスト入賞作品展が2008年7月3日(木)～7月12日(土)と2008年7月14日(月)～7月23日(水)の2期間に分けて開催されました。新宿御苑からの撮影帰りの人など多くの方にご来場いただきました。



### 堀内カラー新宿 MCC会員割引のご案内

第15回・第16回MCCフォトコンテスト入賞作品展が開催されたHCLフォトギャラリー新宿御苑を運営する堀内カラーでは、MCC会員、準会員の皆様に会員割引価格にてプロラボサービスをご利用いただけるようになりました。堀内カラー新宿店頭にてMCC会員カードをご提示ください。また、遠方の方にはメールオーダーサービスもございます。価格等の詳細は、電話またはE-Mailにて担当者までお問い合わせください。この機会に是非、プロに定評のある堀内カラーの現像・プリントサービスをお試しください。

#### 株式会社堀内カラーフォトアートセンター

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-6-5  
TEL.03-3226-9602  
E-Mail photoart@horiuchi-color.co.jp  
担当者 小川、筒井

### コダックフォトクラブ 準会員入会キャンペーン

コダックフォトクラブ準会員に入会しませんか？  
コダックフォトクラブ準会員は、マミヤカメラクラブの会員の方ならどなたでも入会できます。  
2008年12月19日(金)までに  
入会していただきますと、コダック  
フォトクラブ特製カラビナリール  
ストラップをプレゼントします。



#### ■コダックフォトクラブ準会員

入会資格：MCC 会員  
期 間：1年間  
会 費：2,100 円 (入会金不要)  
特 典：会報「コダックフォトカプセル」のお届け(年4回)  
フィルムパッケージ・キャンペーン(フォトカプセル誌上で実施)  
撮影会やフォトセミナーへのご優待

#### ■応募先・問合せ先

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-2-9  
センチュリータワー北棟 7F  
加賀ハイテック株式会社 コダックフォトクラブ事務局  
TEL.03-3813-5316 FAX.03-3813-5371

### マミヤカメラクラブ撮影会予定

#### 唐松の黄葉・富士山奥庭撮影会 1泊2日

2008年10月24日(金)～25日(日)

場所：富士山周辺 講師：花畑 日尚先生 定員：30名

# MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT

## マミヤカメラクラブ



写真を楽しむ・・・、  
学ぶ・・・、そして集う。

写真を楽しむ、学ぶ、そして集う。

写真を通して写真を語り、撮影技術の向上を目指す方のためのクラブです。

マミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会できます。

講師指導の撮影会やクラブ員の全国フォトコンテスト、セミナーなどを実施しています。

撮影会では機材の無料貸出しがあり、使用してみたいレンズなどを試せます。

宿泊撮影会ではセミナーが開かれ講師のアドバイスが得られるほか、愛機のクリニック(点検・清掃)も受けられます。会員の方には、修理割引・オリジナルグッズ特別斡旋などの特典があります。

入会金：1,050円(消費税込み)

会費：4,200円(消費税込み) 2年会費

手続：入会のご案内(払込取扱票付き)を事務局にご請求下さい。

### クラブ員特典

- クラブ誌「マミヤギャラリー」の配布  
クラブ員の皆さまの写真をより多く公表する場としてのクラブ機関誌「マミヤギャラリー」を年2回配布します。
- 修理代金の割引  
ご愛用のマミヤ製品の点検・修理を依頼する場合には、通常の修理代金より割引いたします。
- マミヤカメラクラブメール  
クラブ主催のイベントや新製品情報など、写真に関する情報をいち早くお知らせいたします。
- マミヤオリジナルグッズの特別斡旋販売  
マミヤ特製オリジナルグッズをクラブ会員特別価格でご提供させていただきます。



入会のお申し込み・お問合せは

### マミヤカメラクラブ事務局

〒110-0005 東京都台東区上野 2-14-22 明治安田生命上野公園ビル 4F  
TEL.03-5688-8024



### マミヤカメラサービスセンター

修理をはじめオーバーホール、清掃などを専門に承ります。

また、マミヤ全機種を展示。実際に手にとって操作感や質感を確かめられるとともにお客様の個性に応じた商品選定などのアドバイスも提供しています。

また、操作上の疑問にもお答えしています。電話、ファクスでも承ります。

東京サービスセンター TEL 03-5688-8036 FAX 03-5688-8040 営業時間 9:00～18:00

大阪サービスセンター TEL 06-6541-5631 FAX 06-6541-5769 営業時間 9:00～18:00

土、日、祝日は休業

## マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

本社 〒110-0005 東京都台東区上野2-14-22 明治安田生命 上野公園ビル4F

商品・修理に関するお問い合わせは、下記へご相談下さい。

東京サービスセンター 〒110-0005 東京都台東区上野2-14-22 明治安田生命 上野公園ビル4F

TEL 03-5688-8036 FAX 03-5688-8039

大阪サービスセンター 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江1-10-11 西谷ビル

TEL 06-6541-5631 FAX 06-6541-5769

修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

### マミヤカメラ認定修理センター

北海道地区 株式会社タックカメラサービスセンター 〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目

TEL 011-221-6507 FAX 011-232-3344

東北地区 M C プロテック 〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5丁目3-44 森ビル202

TEL 022-297-3348 FAX 022-256-1808

東海地区 山田テクニカルサービス 〒496-0026 愛知県津島市唐臼町大門99

TEL 0567-32-2708 FAX 0567-32-3454

※マミヤカメラ認定修理センターでは、商品の説明に関する業務はいたしておりません。

《マミヤホームページ》<http://www.mamiya.co.jp>

この会報誌は最高級の美術印刷技術 HBP-700 を使用しています。